

研究のページ……本校で取り組んでいる研究についてお知らせします。

## 令和3年度の研究について

### 研究テーマ

「社会生活に生きる力を育む指導の充実」 ～各学部で設定～

小学部低学年

「日常生活の指導の充実～基本的生活習慣の確立・コミュニケーションスキルの育成～」

小学部高学年

「普段の生活につながる授業実践」

中学部

「ICTを活用した授業づくり」

高等部

「社会での生活を意識した共有した取り組み」

総合支援部

「授業改善のための学部・家庭との連携」

### 研究の目的

前研究では、「主体的で対話的で深い学びの視点での授業づくり」をテーマに、教材・教具の工夫や授業の構成の工夫など、全校で共通理解のもと、3つの視点で様々な工夫が行われた。

この前研究を通して、生徒児童の実態をもとに、目標や課題の設定をして、単元の設定や内容を構成、授業展開の工夫を考えて、評価を行ういわゆるPDCAサイクルの重要性を改めて確認した。

そこで本研究では、「何を学ぶか」について、生徒児童の学習評価を的確に行い、実態にあった目標や課題設定をし、社会生活に生きる力を育む授業づくりを目的とする。

### 研究方法

#### (1) 授業研究・授業研究会・研究協議を実施し、日常の授業づくりを見直す

各学部・ブロックでテーマに沿った授業づくりを行う。

現在の授業づくりを振り返り、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から、単元構成や授業展開、指導内容や方法などを整理し、改善を図る。

学習目標及び学習評価を「育成を目指す三つの資質・能力」に沿って設定、実施し、児童生徒の変容から「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点からの改善の工夫の妥当性を検討する。

他学部の授業を参観し合い、疑問点や感想等を交換できるようにし、学部間の系統性を意識する機会とする。

#### (2) 「実践のまとめ」を作成するとともに、実践報告会を実施し、全校で共通理解を図る

1年間、各学部で取り組んだ成果や課題をまとめるとともに、全校で報告し質疑応答する場を設けることで、共通理解を図る。

#### (3) 学習指導要領理解推進研修会を実施し、テーマや授業づくりについて考えを深める

①外部講師を招いた職員全体研修会

国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センター  
教育・福祉連携推進官 畠山和也（はたけやまかずなり）先生

②各学部における研修会（学部研究部員による）